

種子島及び馬毛島に滞在する工事関係者数の推移

種子島に滞在する工事関係者数推移（単位：人）※（）内は西之表市の数

	(R6) 4/24 現在	6/28 現在	9/6 現在	10/31 現在	12/23 現在	(R7) 2/28 現在	4/23 現在
宿泊施設	約 190 (約 150)	約 170 (約 110)	約 90 (約 80)	約 190 (約 150)	約 170 (約 130)	約 190 (約 150)	約 180 (約 140)
賃貸物件	約 470 (約 360)	約 440 (約 330)	約 380 (約 290)	約 410 (約 300)	約 420 (約 300)	約 400 (約 300)	約 390 (約 300)
仮設宿舎	約 1,060 (約 840)	約 1,140 (約 870)	約 1,340 (約 1,000)	約 1,240 (約 1,010)	約 1,210 (約 990)	約 1,120 (約 920)	約 1,060 (約 880)
自宅等	約 90 (約 60)	約 90 (約 60)	約 100 (約 60)	約 160 (約 120)	約 180 (約 140)	約 160 (約 130)	約 110 (約 80)
合計	約 1,800 (約 1,400)	約 1,840 (約 1,380)	約 1,910 (約 1,430)	約 1,990 (約 1,590)	約 1,980 (約 1,560)	約 1,880 (約 1,490)	約 1,740 (約 1,400)

馬毛島に滞在する工事関係者数推移（単位：人）

	(R6) 4/24 現在	6/28 現在	9/6 現在	10/31 現在	12/23 現在	(R7) 2/28 現在	4/23 現在
馬毛島	約 1,640	約 1,840	約 2,290	約 2,860	約 3,030	約 3,650	約 4,200
種子島馬毛島合計	約 3,440	約 3,680	約 4,200	約 4,850	約 5,010	約 5,530	約 5,940

※各数値は1桁目の位を四捨五入している。そのため内数の和が小計と合わない場合がある。

※滞在する工事関係者のピークについては、令和5年5月12日の第12回西之表市と防衛省との協議の場において、工事着手から約1年後、種子島で約2,000人、馬毛島で約4,000人との見通しが示されていた。

※R5.8月から、馬毛島分の工事関係者数については、休暇等により一時的に馬毛島を離れる者もカウントするように集計方法を変更している。

※馬毛島の仮設宿舎は防衛省において整備しており、種子島の仮設宿舎は防衛省が整備したのではなく、他の事業者が整備したものの、馬毛島内の仮設宿舎について、令和7年3月に約4,200室の建設工事が完了。

※将来的な工事関係者の見通しは種子島で最大2,000人程度、馬毛島で最大4,000人程度。

防衛大臣への要望について

令和7年5月28日 中谷元防衛大臣へ要望書を提出しました。

米軍空母艦載機着陸訓練（FCLP）に関連して、米軍機が西之表市上空を飛行しないことの担保を求める要望書

本市は、これまで、住民の不安解消のため、米軍空母艦載機着陸訓練（FCLP）に関連して、米軍機が本市上空を飛行しないことを申し入れてきています。

それに対し、貴省から、「米軍空母艦載機着陸訓練（FCLP）の飛行経路は米軍と調整したものであり、緊急時を除き、お示しした以外の経路を飛行することはないと認識している」旨、説明を受けています。

しかしながら、航空法特例法が制定されている状況下では、米軍機による本市上空の飛行の可能性は拭えないことから、下記について要望します。

記

- 1 日米合同委員会において、「西之表市上空を飛ばないこと」について協議の上、合意を得ること。
- 2 防衛省と本市との間で、「西之表市上空を飛ばないこと」を担保する書面による協定等を締結すること。

令和7年5月28日
西之表市長 八板 俊輔

自衛隊施設整備に伴う市民の期待の声の実現を求める要望書

馬毛島への自衛隊施設整備工事の工期が、約3年間延長されました。施設整備に伴う地元への影響や負担、国防への貢献、あるいは経済的潤い等の狭間の中で、市民間ではさまざまな意見が聞かれます。さらに、米軍への提供施設及び自衛隊施設とも無縁であった地域に整備される初めてのケースとなることは、これまで申している通りであり、負担軽減とあわせ、将来世代まで含めた地域振興策を講じる必要性を感じています。

については、市民の期待の声の実現に向け、下記について要望します。

記

- 1 再編交付金について、交付期間や金額の見直し、さらには、一定の制約の緩和など弾力的な運用が可能となるよう制度の拡充を図ること。
- 2 種子島・馬毛島は、元来、基地とは無縁の地域であることから、既存制度の枠にとどまらず、地域振興への最大限の支援を行うこと。

令和7年5月28日
西之表市長 八板 俊輔

馬毛島先遣隊の馬毛島における勤務開始について

令和7年6月17日 航空自衛隊・春日基地のホームページにおいて、「馬毛島先遣隊の馬毛島における勤務開始について」のページが更新されましたので、お知らせします。

馬毛島先遣隊の馬毛島における勤務開始について

令和7年6月
防 衛 省

- 防衛省は、南西地域における自衛隊の訓練、緊急時の活動拠点及び米空母艦載機の着陸訓練のための施設を馬毛島に整備し、同島に航空自衛隊馬毛島基地（仮称）を開設することを計画しております。
- 馬毛島基地（仮称）の早期運用開始を目指しているところ、令和7年3月24日、その開設に必要な準備等を実施するため、**馬毛島先遣隊**を春日基地に新設しました。
- 今般、馬毛島における施設整備の進捗に伴い、現地で実施すべき業務が生じる見込みであることや、勤務場所や居住場所も一定程度整ってきたことに鑑み、**7月から、馬毛島先遣隊の隊員の一部を馬毛島で勤務させることとしました**のでお知らせします。
- 馬毛島先遣隊の隊員は、**7月1日から、順次、種子島に移動し、種子島における事務所の準備等を実施しつつ、必要な準備が整い次第、馬毛島で勤務を開始します。**
- なお、馬毛島で勤務する隊員は、**種子島の中種子町の宿舎に居住し、種子島から馬毛島へ通勤します。**
- これにより、馬毛島先遣隊の隊員のうち、約60名が馬毛島に、約40名が春日基地に勤務することとなります。

（馬毛島先遣隊の隊員の勤務先）

	春日基地	馬毛島	合計
令和7年6月まで	約90名	—	約90名
令和7年7月以降	約40名	約60名	約90名

※1 四捨五入により合計が一致しない場合があります。

※2 馬毛島での勤務開始は、7月以降必要な準備が整った後となります。

馬毛島の施設整備の状況

令和7年6月2日 九州防衛局ホームページにおいて、「馬毛島における施設整備について」のページが更新されましたので、お知らせします。

○馬毛島の施設整備の状況（令和7年6月）

滑走路 造成工事



係留施設等 本体工事



仮設プラント工事



事後調査（鳥類）



事後調査（鳥類）



環境監視調査（海域）

